

「あいりん地区」

# 「断酒の家」 づくり計画

西成カウンスリング研など

アルコールのにおいが絶えることのない西成区あいりん地区  
のど真ん中で单身労働者を対象に、酒と縁を切って生活を立て直  
そうという「断酒の家」づくりの計画が、西成カウンスリング研  
研究会（会長、エリサベス・ストローム）や地元のカトリック  
教会（会長、エリサベス・ストローム）や地元のキリスト  
教団体・釜ヶ崎協友会、大阪府酒会（兼田好一事務局長）などの  
手で進められている。同地区は、アルコール中毒者の数が全国一  
といわれ、精神科医は「アルコール中毒者の多発地の中での治療  
の試みこそ大切」、断酒会の人たちは「成功すれば、ワシらは  
この世界のまんなかに立って行ける」と期待している。

## 单身労働者対象に

寮の修築 10~15人共同生活  
元会社の借入金で



ストロームさん（右端）を中心に「断酒の家」建設を話し合う  
断酒会メンバー、牧師、精神科医たち（西成区山王二丁目で）

計画によると、西成区釜ヶ崎地区  
二丁目の、建築面積約三百三十平  
方尺の元会社寮。二階建ての同寮  
を修築し、八、六、四畳の部屋計  
九室と、十八畳の集会所、同事務  
所や治療のための作業場づくり、  
断酒を志す十五人が共同生活  
しようという。このほか会費外の  
断酒を試みる人にも開放し、集会  
や、カウンスリングによって、気  
持ちのよむところにしていきた  
い、という。

りとなり四年後、アルコール中  
で足がたたくなくなり、病室の出入  
院をくりかえしていた人、昨年夏、  
あいりん地区で野宿して肝臓をこ  
わして入院していた人などいる  
いる。みんな断酒会に入り、やっ  
断酒を断つことに成功した。「断酒  
で体の調子も戻り、人生を生き直  
してみたいや。けど、断酒には  
相当の覚悟と仲間がいる」二階高  
相取業者も、「もっと多くの入  
会者、酒を断つ喜びをわちた  
い」「無風、などの声があが  
り、昨年度ごろから断酒の家づく  
りにとりかかったという。

しかしこの計画には「家」の購  
入、修繕費三千五百万円が必要。  
このため教会や、ボランティア関  
係を通じて全国に募金を呼びかけ  
千円〜一万円の寄付金約三百通  
万内が寄せられ、断酒会のメンバ  
ーが行った昨年二回のバザーの取  
引金五十万円を合わせ、千五百万  
円のめどがたった。同グループで  
は、とりあえず借入金してスタート  
するが、引き換え借金を返済かけ  
ている。

同地区内の大阪社会福祉センター  
一本山山長は、「酒に身をま  
す人がいだけ、成果を期待  
している。」

この話には、ウソ話がある。  
この話が出たから、カンパもあつまり、  
銀行から借入金もして、家を買いたい、  
あ、使おうかとな、た時に、ま、たがかつ  
たのだ。

町会の役員が来て、「酔、ぼらいばかりあつ  
めてもらうのは二まる」このことらしい。  
町会いうても、ドヤ、酒や、めしやばかり  
じゃないか。「断酒」でもとれると、インキ  
キ酒の売り上げがへるとでも考えたかな。（ア）